2012年(平成24年)4月26日 木曜日

蜂蜜を村の特産に

佐那河内の休耕地で養蜂

支援グループ発足

佐那河内村の休耕地で養蜂を行い、山村を活性化しようと、徳島市の農家ら16人が25日、「みつばち倶楽部〝ムラづくり支援し隊〟」を結成した。高齢化が進む同村上の東府能地区の休耕地にレンゲを植え、蜂蜜を採取。地域住民とともに特産品の開発や販売も目指す。

発起人は、養蜂に取り組む元木幸利さん(58)=藍住町住吉、飲食店経営=や宮崎忠司さん(62)=徳島市北田宮4、農業=ら。県内で休耕地が増え、棚田など山村の風景が失われつつあるため、休耕地で栽培したレンゲから蜜を取ることができる養蜂に着目した。

昨年10月、元木さんらが佐那河内村役場を訪れて原仁志村長らに会の取り組みを提案。村の協力を得て東府能地区の棚田計約30㌃を借り受け、レンゲの種をまいて活動開始に向けた準備を進めていた。

会員は25日、東府能集会所で初の総会を開いた後、レンゲが咲き始めた近くの棚田に移動。前日に設置した巣箱2基を見ながら、巣箱を開ける時の注意点や手入れの仕方などを学んだ。

今後は会員が定期的に村を訪れ、蜜の集まり具合や害虫の有無を点検。順調にいけば、5月中旬ごろに蜂蜜が採取できるという。蜂蜜を使った料理教室を開く[illegible]、地元住民との交流行事も計画している。

元木会長は「村民と交流し仲間を増やし、楽しくやりたい。先人が残してくれた棚田の風景を守ることができたらうれしい」と話している。（大野真味）

レンゲ畑に設置した巣箱を点検する会員＝佐那河内村上

使用記事未許諾のため全文掲載できません